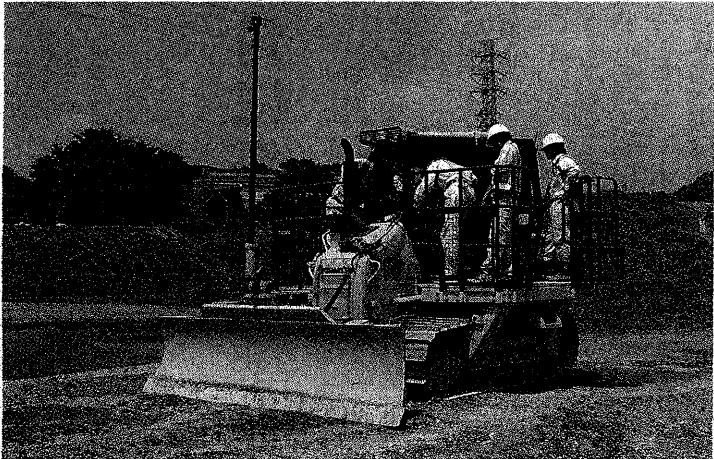


情報化施工推進へ国交省が新戦略スタート

五つの重点目標と10の取り組み



情報化施工の普及へ引き続き研修も重要なテーマとなる

国土交通省は、13年度から5年間の「情報化施工推進戦略」を策定した。情報通信技術（ICT）を工事に活用して社会資本の質を高め、維持管理・更新を的確に行えるようにする。この情報化施工の目的達成に向けて「五つの重点目標と10の取り組み」を設定した（表1参照）。13年度から1万立方メートル以上の土工工事で使用を原則化する一般化技術「トータルステーション（TS）」による出来形管理技術の適用範囲の拡大。重機を自動制御するマシンコントロール（MC）、重機操作をサポートするマシンガイダンス（MG）などの普及にも取り組む。

（編集部・岩本英司）

表1 情報化施工推進戦略：五つの重点目標と10の取り組み

① 情報化施工に関連するデータの利活用に関する重点目標	
1	情報化施工による施工管理要領、監督・検査要領の整備
2	情報化施工の定量的な評価の実施
3	技術基準類（設計・施工）の整備
4	CIMと連携したデータ共有手法の作成
② 新たに普及を推進する技術・工種の拡大に関する重点目標	
5	新たな技術や既存の技術を導入し普及する仕組み作り
③ 情報化施工の普及の拡大に関する重点目標	
6	一般化および実用化の推進
7	ユーザーが容易に調達できる環境の整備
④ 地方公共団体への展開に関する重点目標	
8	情報発信の強化
9	情報化施工の導入現場の公開や支援の充実
⑤ 情報化施工に関する教育・教習の充実に関する重点目標	
10	研究の継続と内容の充実

TS出来形管理

1万³m³以上土工で原則化

直轄工事で活用8倍に

情報化施工では、調査・設計・施工・維持管理という建設生産の一連のプロセスについて、ICTの活用を通じて他のプロセスの情報と相互連携。生産性、施工の品質、建設事業に対する信頼性向上を図る。

国交省はこうした視点から、建設施工のイノベーションを実現するための戦略的な方策を示した前「情報化施工推進戦略」（08～12年度）を策定。情報化施工の導入効果が期待できそうな技術を直轄工事で活用し、普及に取り組んできた。その結果、情報化施工を活用した工事は08年度に75件だったのが、12年度（13年2月末現在）

表2 情報化施工の普及拡大に向けた技術の分類

【一般化推進技術】	
・TSによる出来形管理技術（土工）	ただし、1万m ³ 未満の土工を含む工事に限る
・TS・GNSSによる締め固め管理技術	土工（敷均し締め固め工）を対象とする
・前戦略に引き続き一般化を推進する技術、路盤工を対象とする	
【実用化検討技術】	
・TSによる出来形管理技術（舗装工）	舗装工を対象とする
【一般化技術】	
・TSによる出来形管理技術（土工）	ただし、1万m ³ 以上の土工を含む工事に限る

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成25年5月14日（朝）・夕 P14

スコープ 建設生産

MC、MG普及も継続して取り組み

には約8倍の610件まで拡大した。また、ICTを駆使して設計、施工、協議、維持管理などの情報を一元化する方策として同省が検討しているコンストラクション・インフォメーション・モデリング（CIM）とも連携し、建設事業全体の効率化方策を具体化する方向も打ち出した。

直轄工事で活用8倍に

その結果、従来手法とコストが同等と認められたTSによる出来形管理技術（土工）は、13年度から1万立方メートル以上で原則化する一般技術に格上げされた。一方、従来施工よりコストが高くなるMCモーターグレーダーの一般化は見送り、他の一般推進技術、実用化検討技術とともに引き続き普及措置を講じながら、一般化技術とすることを目標とする（表2参照）。